

# ■創意工夫・独創性など施行者が提案する評価指標の概要（案）

## 提案① 地下鉄連絡通路・地下鉄連絡広場の整備と活用

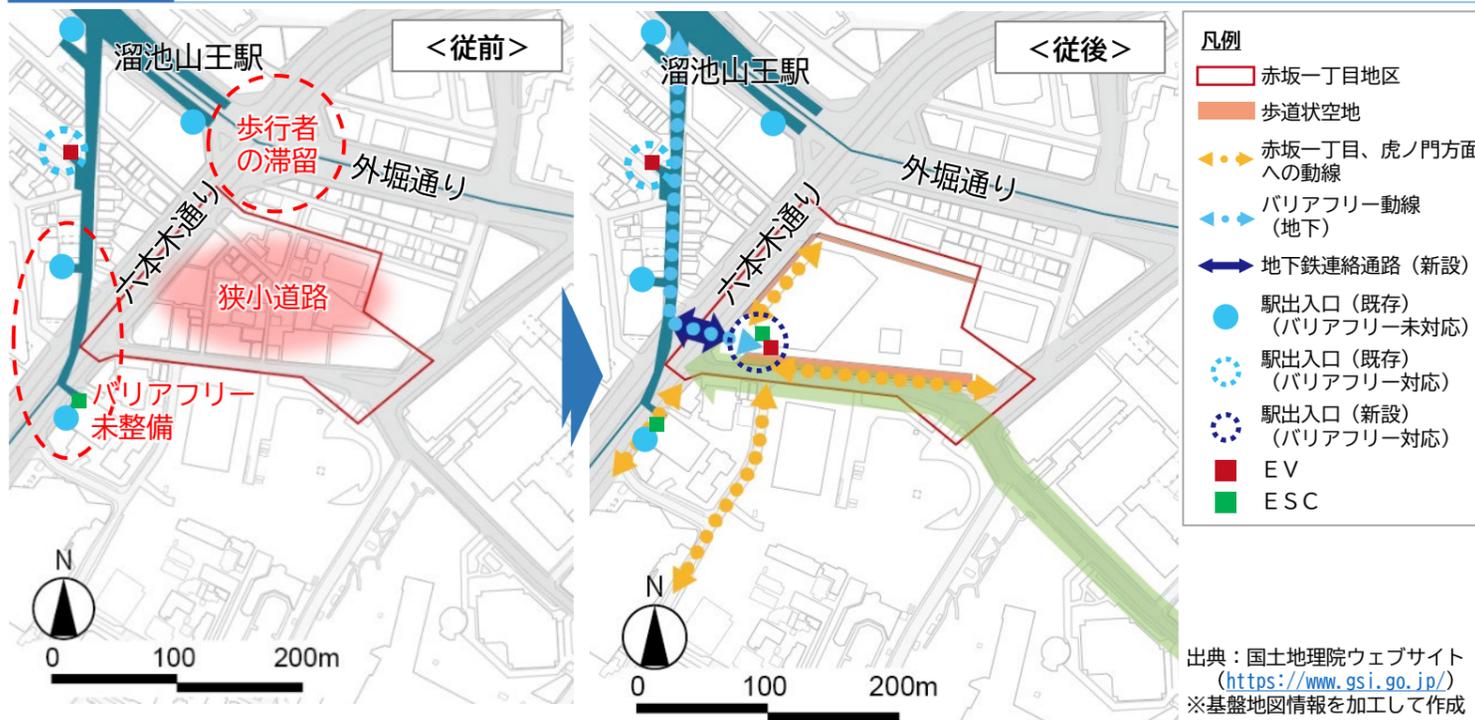
### 【従前の課題】

- 外堀通りより南側に位置する溜池山王駅直結の出入口で、エレベーターが整備されている出入口が1か所、エスカレーターが整備されている出入口も1か所のみで、溜池山王駅から赤坂一丁目、虎ノ門方面へ向かうバリアフリー動線が確保できていない状況でした。
- 六本木通りにより、溜池山王駅から赤坂一丁目、虎ノ門方面へ向かう歩行者動線が分断され、溜池交差点にて歩行者の混雑、滞留が発生していました。
- 地区周辺は、歩道幅員が狭く、歩車分離が図られていない状況であり、歩行者が安全で快適に歩行できる空間が確保されていない状況でした。

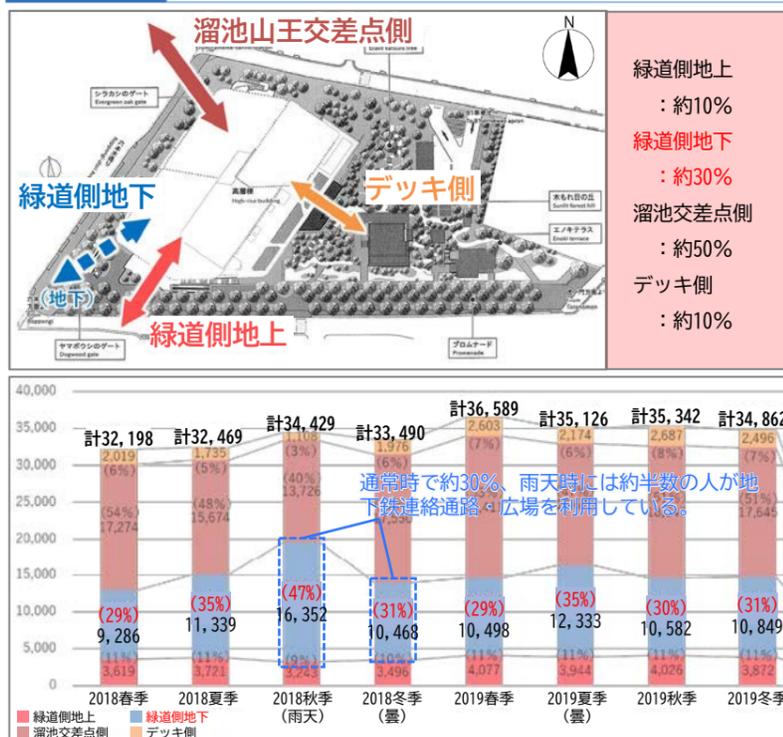
### 【取組内容】

- 地下鉄連絡通路及び地下鉄連絡広場を整備し、溜池山王駅から雨にぬれず赤坂一丁目、虎ノ門方面へアクセスできるバリアフリー動線を確保しました。また、従前の狭小道路を廃止し、敷地外周に歩道と一体となった歩道状空気を整備することで、円滑で快適な歩行者空間が形成されました。（図表1-1、1-2）
- 当地区は、溜池山王駅から大塚北エリアの周辺街区へと繋がる歩行者ネットワークの結節点となっており、特に地下鉄連絡広場と一体的に整備したサンクン広場において、にぎわい創出に資するイベントや展示等を行うことで、地域の魅力づくりに貢献しています。（図表1-2）
- 施設しゅん工後も、施設出入の歩行者流量を調査しており、新設の地下通路が多くの方に利用されていることが確認できます。（図表1-3）

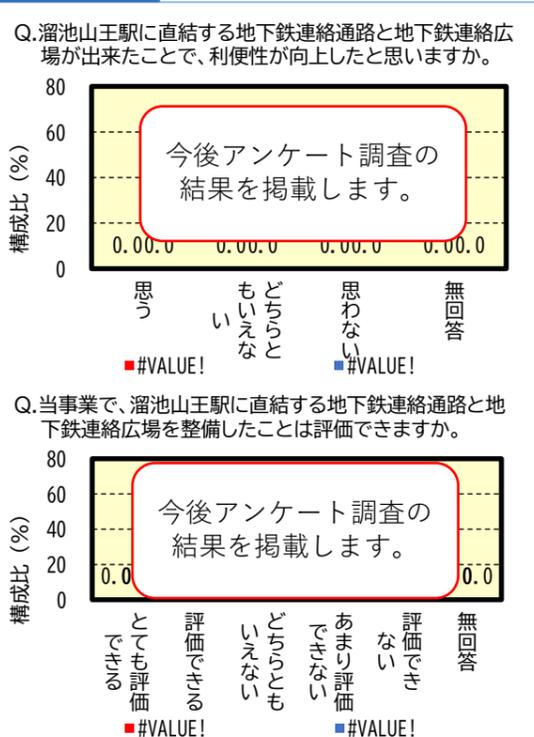
図表1-1 赤坂一丁目、虎ノ門方面へアクセスできる溜池山王駅直結のバリアフリー動線の整備



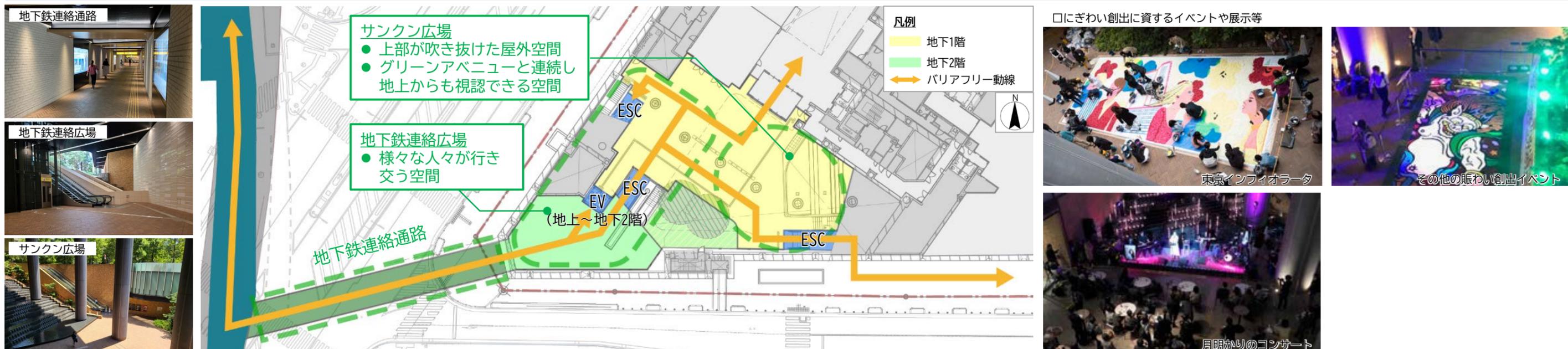
図表1-3 しゅん工後の施設出入の歩行者流量について



参考 アンケート調査結果



図表1-2 溜池山王駅直結の地下鉄連絡通路・地下鉄連絡広場の整備



# ■創意工夫・独創性など施行者が提案する評価指標の概要（案）

## 提案② 豊かな緑化空間の整備と維持管理

### 【従前の課題】

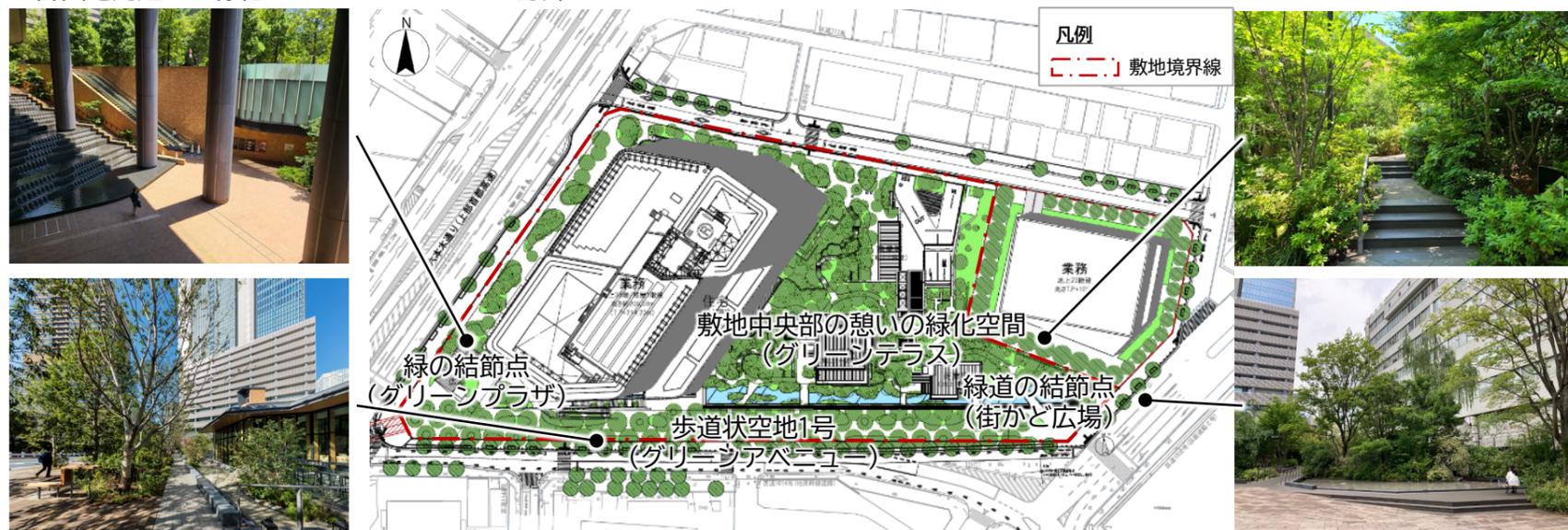
- 幹線道路沿いには街路樹が存在していましたが、既存市街地や細街路部分はほぼ緑化空間が存在しない状況でした。
- 当地区はホットスポットが連なる地区に存在しており、公園や緑地が不足している状況でした。
- 当地区周辺には自然緑地が存在しており、それらと同様の緑の拠点としてエコロジカルネットワークを構成することが期待されていましたが、特に当敷地は緑に乏しい状況でした。

### 【取組内容】

- 赤坂・虎ノ門緑道の起点となる「グリーンアベニュー」や敷地内に約6,500㎡（緑化率：約58%）の大規模な緑化空間を整備し、快適な緑陰空間を創出しました。緑道の結節点部分には、緑豊かな「グリーンプラザ」や「街かど広場」を配置し、隣接街区の緑、オープンスペースとの連携を図り、敷地中央部の「グリーンテラス」は、四季を感じることができる植栽や菜園を配置することで、様々な人々が憩うことができる空間を整備しました。（図表2-1）
- 地区内の緑は、自然樹林にならった維持管理を行うことで、周辺の自然樹林（緑の拠点）を結ぶ生物多様性に富んだエコロジカルネットワークの形成に寄与しています。（図表2-2）
- しゅん工後は、緑化空間の維持管理の向上を目指し、グリーンインフラ活用型都市構築支援事業を活用して温度変化や歩行者流量等の調査を実施しています。温度変化の調査では、緑化や透水性、保水性舗装の効果が確認できました。（図表2-3）

図表2-1 緑化空間の整備

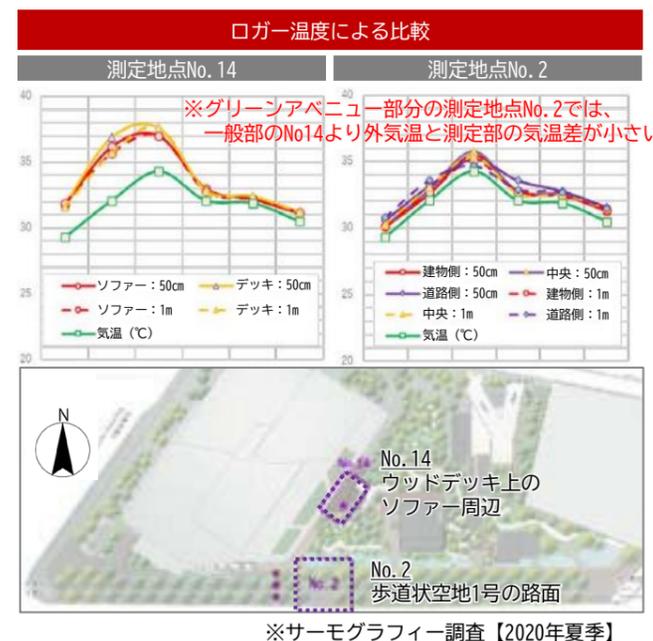
□計画地周辺での緑化・オープンスペースの方針



□グリーンテラス内に菜園を整備



図表2-3 しゅん工後のモニタリング調査



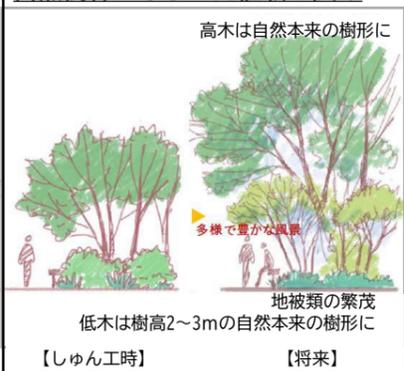
図表2-2 自然樹林の姿にならう植栽・維持管理方法



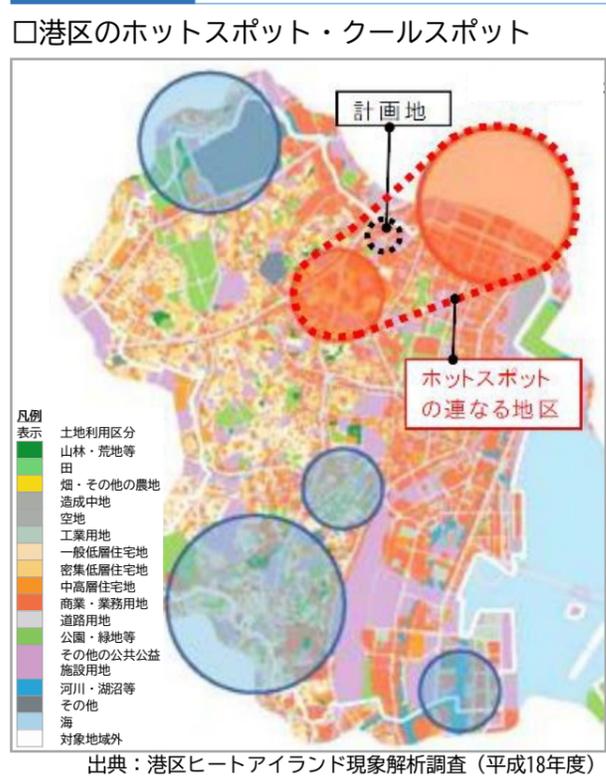
### 標準的な植栽



### 自然樹林にならった植栽の試み

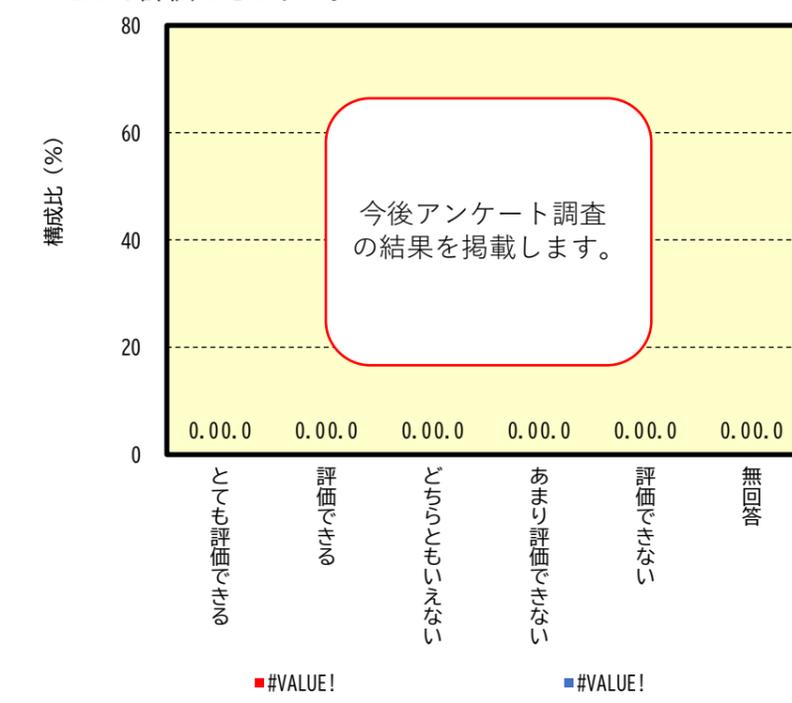


参考 従前の計画地周辺の緑化状況



参考 アンケート調査結果

Q. 当事業で、赤坂・虎ノ門緑道の起点となる緑化空間を創出したことは評価できますか。



# ■創意工夫・独創性など施行者が提案する評価指標の概要（案）

## 提案③ 国際水準のコンファレンス整備と運用

- ・ 国際的な競争力を有するビジネス拠点の形成へ向け、国際水準のコンファレンスを整備しました。当地区のコンファレンスは、ミーティング機能のみならず、国際会議や企業の催事等様々なニーズに対応するため、大中小それぞれの規模の会議室を配置するとともに、アンフィシアターやVIP対応のボードルーム等、特殊会議室が併設されています。（図表3-1）
- ・ 様々な会議に対応するための設備として、大会議、アンフィシアターには同時通訳室を設けているほか、各会議室間での映像、音声の共有や高速インターネット回線など最新の設備を整備しました。
- ・ コンファレンスに併設してダイニング整備することで、日常のランチニーズやコンファレンスのレセプション等にも対応しています。
- ・ 実際に当地区のコンファレンス施設において国際規模での会議やワークショップ等が行われている他、文化活動に係るイベント等にも利用されています。（図表3-2）
- ・ 近隣のホテルと連携したケータリングサービス等の実施や周辺のエンターテイメント施設の情報提供をするなど、地域の活性化に貢献しています。

図表3-1 国際水準のコンファレンスに求められる施設と当地区のコンファレンス

### ●会議室の種類と必要関連空間

1. 大会議室・中会議室・小会議室及びブレイクアウトルーム（12名程度の討議室）
2. アンフィシアター会議室（階段教室）
3. ボードルーム（役員、幹部を対象にした高級会議室）
4. コンファレンスロビーやホワイエ及びコーヒブレイクエリア（キオスク）
5. コンファレンスコンシェルジュ&コーディネーターデスク（各種サービス受付）

※会議室の種類と必要関連空間は、国際コンファレンスセンター協会の考え方を参考にしています。



□アンフィシアター



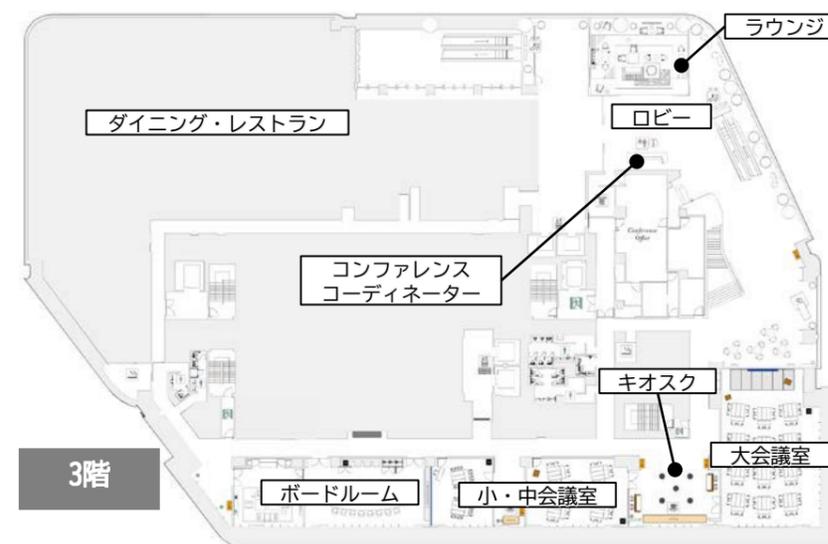
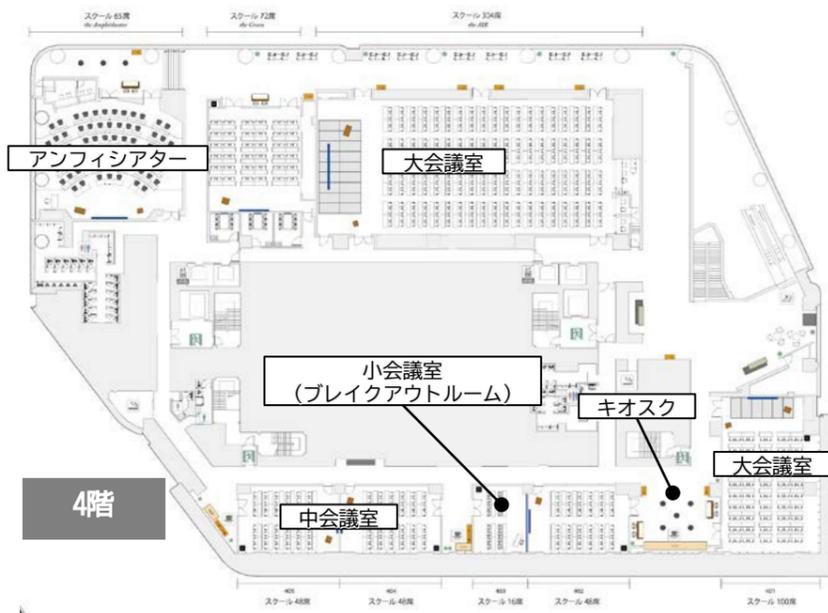
□大会議室



□VIP対応のボードルーム



□議論や交流を活発化させるキオスク



図表3-2 コンファレンスにおける国際規模の会議等の事例

日程	主催者	内容
2018年6月25日(月)～29日(金)	官公庁	国際ワークショップ
2019年12月19日(木)	某研究法人	国際シンポジウム
2020年11月13日(金)	官公庁	国際フォーラム

その他、令和3年も10件程度開催しています。また、最新の設備やインターネット環境を整えた専門施設として国際規模のリモート会議も実施されており、今後このような取組が増えていくと考えられます。



□アンフィシアターで開催された国際会議



□大会議室で開催された文化啓蒙イベント



### 参考 周辺施設との比較

評価カテゴリ	赤坂インターシティAir	施設A	施設B	施設C
施設構成				
メインホール規模感	545㎡	590㎡	460㎡	770㎡
コンファレンスルーム規模感	90～200㎡ 7室	90～200㎡ 5室	90～200㎡ 4室	90～200㎡ 4室
特別室の有無	アンフィシアター、ボードルーム	なし	階段教室	なし
共有空間の充実度	すべての部屋に専用ラウンジを付帯	全体ロビーとホワイエ	全体ロビーとホワイエ	全体ロビーとホワイエ
設備				
同時通訳ブースの有無	ホール・アンフィに常設	仮設	仮設	仮設
施設全体のネットワーク	全部屋の映像音声を接続可	全部屋の映像音声を接続可	仮設	仮設
タブレット制御等の利便性	全部屋にタブレット制御端末常設	部屋によってタブレット制御可	不可	不可